

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2024年度	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		環境園芸学科／子ども教育学科		
科目名称	自然緑地計画論					授業形態	講義		
科目コード	710040	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員	○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	平岡 直樹							ICT活 用	○
授業概要	<p>本授業の目的は、自然緑地とはどのようなものかを把握するための基本的内容を理解し、その取扱いの技術を学ぶことである。特に自然空間を創造する者として、また一人の市民として関わっていくことの出来る身近な自然緑地を中心として、その歴史と利用の実態、政策、諸外国の事例、及びそれらを有効に長く利用していくための理念と計画技術について学ぶ。また日常生活と自然緑地とのかわりも考える。日本のみを対象とするのではなく、広く世界の都市を見渡し、国際的な視野で学ぶ。建設コンサルタント（都市計画及び地方計画部門）にて実務経験を有する教員が、自然環境の調査、計画に関する実社会の実例について、写真や図版を用いながら解説する。</p>								
関連する科目	造園学概論を事前に、自然緑地計画論演習を同時に受講することが不可欠です。履修後は、景観論、都市計画論、都市緑地論、建築学概論を履修することが望ましい。								
授業の進め方 と方法	<p>毎回の授業にて、前回の授業の重要と考えられる項目についての小テストを行う。小テストの回答は次回の授業の冒頭に行う。小テストに備えて授業の後でしっかりと復習をしておいて欲しい。小テストでは、自然や植物等に関連する雑学クイズをおこなう。自然や植物への関心や理解を深めるきっかけとして欲しい。</p> <p>授業は、自然緑地の定義や基本理念を講義するとともに、造園計画に関わる技術についても示す。また、理解を容易にするために写真や図版をなるべく多く提示する。自分自身でも自然緑地の中で類似の事例に出会った時の参考となると考える。</p>								
授業計画 【第1回】	講義内容の紹介 講義の内容、目的等の説明、参考文献の紹介を行う。								
授業計画 【第2回】	自然系緑地の用語と領域 自然系緑地の領域の全体像の把握する。								
授業計画 【第3回】	空間特性（立地条件）から見た自然系緑地の分類 自然系緑地の分類と写真による紹介を通じて自然緑地とはどんなものかを考える。								
授業計画 【第4回】	生態系から見た自然系緑地の分類 自然系緑地の分類と写真による紹介を通じて自然緑地とはどんなものかを考える。								
授業計画 【第5回】	地球環境問題を背景とした自然緑地の位置付け 自然緑地を巡る時代の潮流を学ぶ。								
授業計画 【第6回】	日本の自然緑地の現状 日本における自然緑地の概要、問題点を考察する。								
授業計画 【第7回】	自然緑地の保全の施策 自然緑地を保全するための施策を学ぶ。								
授業計画 【第8回】	自然緑地に関わる施策の概要 法体系と諸外国の制度、条約を学ぶ。								
授業計画 【第9回】	植生調査 植生調査の意義と手法を学ぶ。								
授業計画 【第10回】	森林環境 森林を巡る諸問題を学ぶ。								
授業計画 【第11回】	自然緑地の調査 自然緑地の調査方法を学ぶ。								

授業計画 【第12回】	自然緑地と人工林① 人工林の現状と課題を考察する。
授業計画 【第13回】	自然緑地と人工林② 放置竹林問題を考察する。
授業計画 【第14回】	自然緑地と河川 河川環境の基礎的知識を学ぶ。
授業計画 【第15回】	自然緑地と海岸+計画事例 変わる海岸林と自然緑地の計画事例を学ぶ。
授業の到達目標	1) 自然緑地について体系的に学び、自然環境や社会にどんな役割を果たし、どんな問題点を抱えているかを考える力を身につけ、さらにそれぞれが自らの自然観もより豊かにする。【専門分野の知識・理解】 2) 自然緑地にかかわる専門職業人として必要な基礎的知識や技術を学び、持続可能な循環型社会の実現に向けた課題発見と問題解決をはかる手がかりを身につける。【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)/1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(2)
授業時間外学習【予習】	第1回目の授業で示す参考図書など自然や自然緑地に関する資料を授業前に読んでおく。 また、自らの自然観を深め、自然緑地の社会的意義を理解するために、日常的に身近な自然緑地に赴き、その成り立ちや社会的位置づけなどについて観察し考察を深めておく。(平均約1時間)
授業時間外学習【復習】	第1回目の授業で示す参考図書など自然や自然緑地に関する資料について、授業後に理解が曖昧な時は再度精読しておく。 次回授業での小テストに備えて配布資料などを復習しておく。(約1時間)
課題に対する フィードバック	小テストは、採点後に返却し、次回の授業にて解説をおこなう。レポートは原則として採点後に返却し、必要がある時はコメントする。 定期試験は、終了後に解説を行う。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 小テスト及びレポート20点 2) 定期試験80点
テキスト	授業中において配布する資料及び指示する書籍
参考書	第1回目の授業(ガイダンス)において紹介します。主なものの一部を以下に示す。 ①環境省編『令和5年版環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』、日経印刷、2023 ②石川徹也『日本の自然保護 尾瀬から白保、そして21世紀へ』(平凡社新書)平凡社、2001 ③森山、平岡他『ランドスケープアーキテクチャーの起点』ぎょうせい、2007
備考	